

教育委員会 コラム Vol.19

教育長室の窓から

脳の不思議さ



ご存知のように、脳は「脳幹」「小脳」「大脳」からなり、あらゆる臓器や筋肉への司令を出したり逆に情報を受け取って処理したり、人間の体全体を統括する司令塔のような存在と言われています。

私ごとで恐縮ですが、10年以上前に脳ドックで小さな脳動脈瘤が見つかりました。大きな瘤ではありませんでしたが脳ということで不安になり手術をしたことを思い出します。

ところで、脳の中でも人間の知的活動の中心となる大脳について取り上げます。大脳の表面はシワの多い大脳皮質で覆われており、思考や言語、記憶、意思決定などを行います。大脳は、左右の半球（右脳・左脳）に分かれています。それぞれの半球は脳内の太い神経線維の束（脳梁）によってつながっています。脳の神経経路の多くは左右で交差しているため、左脳からの司令は主に体の右半身に伝わり、右脳からの司令は左半身に伝わります。一般には、左脳は言語や計算など論理的・分析的な処理、右脳は空間認識や音楽・イメージなど直感的・創造的な処理を担う傾向があるということです。ただ、左右の脳は常に協力して働いており、一方の脳だけを主に使うことはなく、最新の研究でも、人は誰でも右脳と左脳をバランスよく使っていることが示されているということです。

創造的な仕事でも論理的な判断でも、右脳と左脳はお互い情報をやり取りしながらチームとして機能しています。脳の働きを知り、教育活動を進めることは学校教育にも必要なことです。

教育長の

ちょっといい話

感動 共鳴 一瞬の奇跡 永遠の青春



「先生方、頑張ったと思います」「まあまあ良かったです」



過日、国見中学校の文化祭に行ってきました。この感想は、全教職員（校長から主事さんまで）でのダンスに対する子どもたちのものです。私の経験からして、楽器の演奏や歌はあっても、教職員がダンスを披露するのを見たのは初めてでした。

また、子どもたちの学習成果の展示コーナーでは、自分の作品を保護者に説明する子どもたちの姿、祖父母と一緒に鑑賞する姿などもあり、子どもたち、教職員、保護者が一体となり作り上げた文化祭だと実感しました。

さらに、「日程骨組」という展示があったので、近づいてみると、何と、「本番までのロードマップを魚の骨で表したもの」でした。2ヶ月前の「ポスター作成」（文化センターにも掲示していました。）会場準備採寸、道具一覧表作成に始まり、1ヶ月半前には、自主参加オーディションの実施、合唱練習など、1ヶ月前には、音響計画、案内状印刷など、本番2日前のリハーサル、会場設営など、そして本番当日の、文化祭当日運営、クロージング実施など、その綿密さに驚きと感動を感じました。

「感動 共鳴 一瞬の奇跡 永遠の青春」のスローガンのもとに作り上げられた文化祭、秋の素敵な一日を私も共有することができ感謝するばかりでした。

